

似島地域活性化ビジョン

つながる、はぐくむ、

# ふるさとにのしま



にのしま まち座談会

令和4年3月

## 目次

---

---

<b>1</b> ビジョン作成の背景	01
<b>2</b> にのしままち座談会	03
<b>3</b> 似島の地域資源	06
<b>4</b> 似島地域活性化ビジョンの検討の視点	07
<b>5</b> 似島の将来像「つながる、はぐくむ、ふるさとにのしま」	08
<b>6</b> 今後の取組について	09
<b>7</b> 今後の取組を踏まえた島の将来展望〈イメージ〉	10

---

---

## 1 ビジョン作成の背景

広島市南区に位置する似島では、人口減少・少子高齢化が進展しており、現状のままでは日常生活機能の弱体化や地域活力の低下がさらなる人口減少を招きかねない状況である。特に似島にとって最も重要なインフラである航路の維持に影響が及ぶ事態は、何としても防がなければならない。

このような現状を打破し、活性化に取り組んでいくためには、まず、住民が主体となり島の将来像(ビジョン)を検討・共有していく必要があることから、本ビジョンを作成することとした。

### 似島の人口・高齢化率の推移

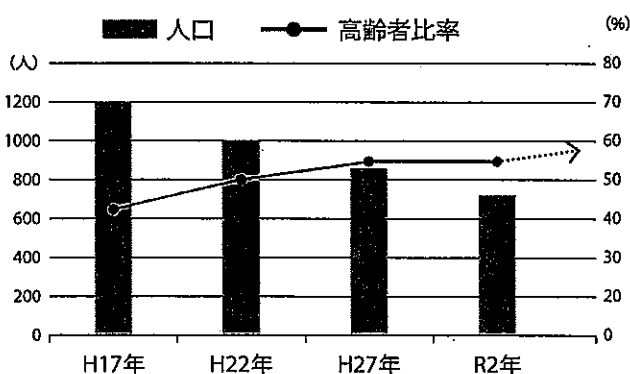
- ・昭和44年の約3,000人をピークに人口が減少し続け、平成17年からの人口増減率は37%減(※下「人口と高齢者比率の推移グラフ」参照)
- ・特に、15~64歳の生産年齢人口の増減率は54.6%減と著しい。
- ・一方で令和2年の高齢化率52.4%は市平均25.4%を2倍以上上回っている。

#### 【令和2年12月末現在(住民基本台帳)】

- ・人口:752人(男 363人、女 389人)
- ・世帯数:490世帯
- ・高齢化率:52.4%
- ・人口増減率(R2/H27): $\Delta$ 12.9%
- ・人口構成(人)

9歳以下	35	50歳以下	79
10歳以上	76	60歳以上	84
20歳以上	48	70歳以上	184
30歳以上	29	80歳以上	130
40歳以上	54	90歳以上	33

人口と高齢者比率の推移

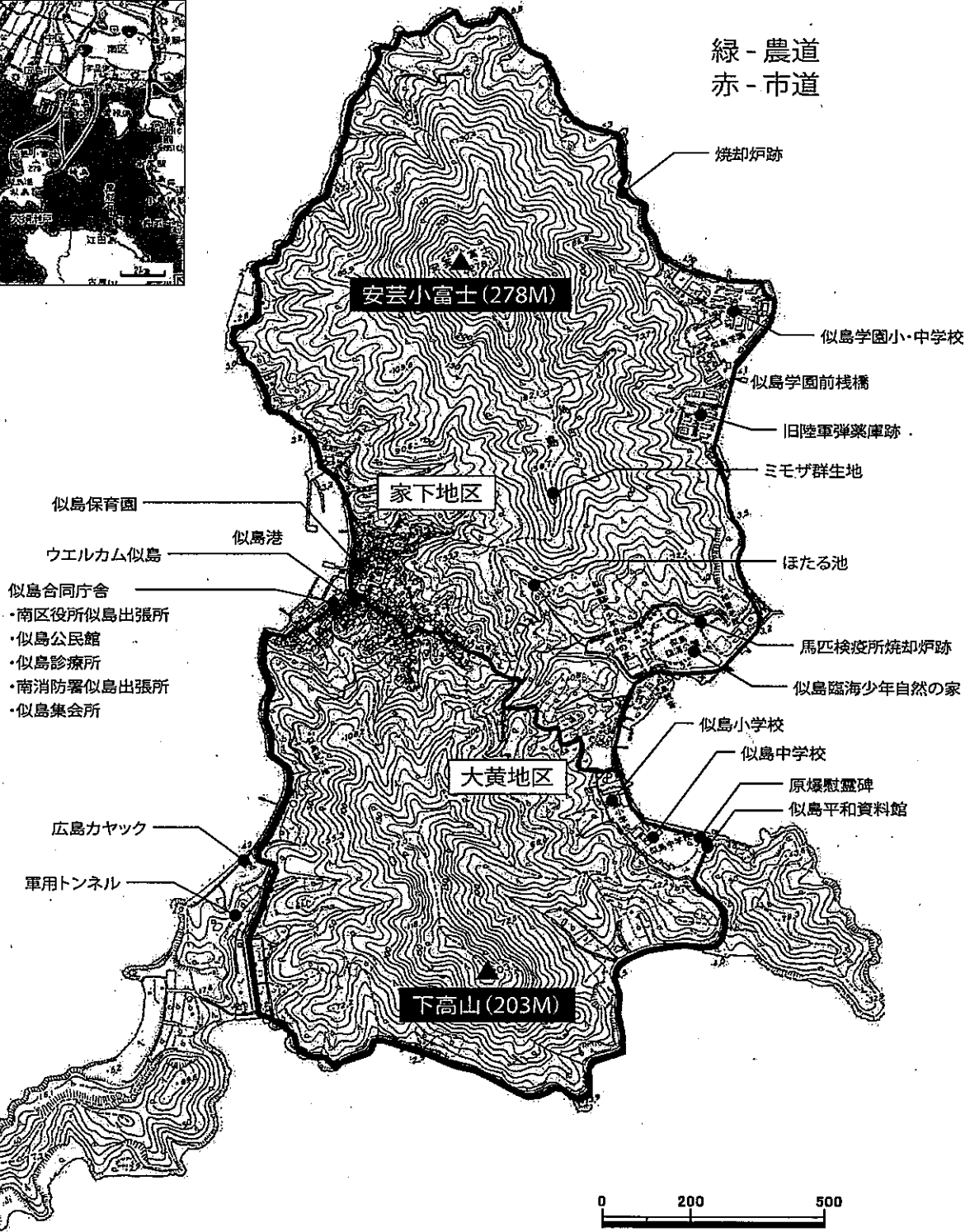


### 本土との交通

- ・本土や他の島との間に橋などはなく、船舶による交通に依存する。
- ・定期航路は、島の西側の「似島港(似島棧橋)」、東側の「似島学園前棧橋」と宇品の間を運行するもので、他の島との間には運行されていない。
- ・本土から似島行きの最終便は午後8時30分、似島から本土行きの最終便は午後8時と比較的早い時間である。

航路	区間	運航者	航路距離	船種・トン数	所要時間	便数(便/日)
航路	広島港棧橋~似島棧橋 (一部、似島学園前棧橋経由)	似島汽船株式会社	5.3km	フェリー 347t	20分 (50分)	13便
	広島市営棧橋~ 似島学園前棧橋	有限会社 バンカーサプライ	5.2km	旅客船 18t	15分	5便

似島地形図



## 2 にのしままち座談会

ビジョン作成に向けて、島民有志により「にのしままち座談会（以下「にのまち座談会」という。）」を開催した。令和元年度から計8回開催（場所：似島集会所）。

なお、にのまち座談会は、将来を見据えた似島の活性化について検討する場であることから、若手を中心のメンバーとした。

### にのまち座談会で語られた【似島の将来に対する希望・期待】

#### 似島の将来に対する希望・期待

- ・ イベントが無いときでも若い人が気楽に来て遊んだり泊まったりする島にしたい。
- ・ 似島全体の牡蠣をブランド化できればよい。
- ・ 東側をどのように活用していくかを基本に考え、島民の暮らしも変えていくことができればよい。
- ・ この島が好きだから、環境が良いからという理由で、来島者、移住者が増えてほしい。

### にのまち座談会で語られた【活性化に向けた意見・課題】

#### 似島の暮らし

- ・ 峠を挟んで東西に分かれているイメージである。
- ・ 食事をするところが少ない。
- ・ 急患について、常駐医がないため、夜間緊急の場合は消防の救急艇で本土に渡るが、入院をしない場合は宿泊場所を確保する必要がある。
- ・ 完全な空き家も少なく、空き家情報を統括的に紹介できる仕組みが必要である。

#### 似島臨海少年自然の家

- ・ 自然の家は主に、宿泊者しか使えないこともあり、島民と自然の家の関係が薄い。
- ・ 自然の家の利用者を増やすためにはアクセスの課題があり、島内交通が必要。
- ・ 自然の家の近くに棧橋があればよい。（再掲）
- ・ 東側の高台（展望広場）が有効に活用されていない。
- ・ 地域が儲かるのであれば地元が自然の家の運営に関わることも考えられる。
- ・ 自然の家ではスポーツイベントなどが開催されているが、ハード面の整備が不足している。

#### 似島小・中学校（オープンスクール）

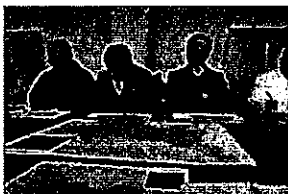
- ・ オープンスクール制度は活性化という面でも良い制度であるが、うまく活用できていない。
- ・ オープンスクール制度は本土とのカリキュラムに差が無いと意味がない。
- ・ 小・中学校と地域との交流が不足している。

**観光**

- ・ 食事をするとところが少ない。(再掲)
- ・ 防災の面でもサイクリング等観光の面でも北側道路の整備が必要である。(再掲)
- ・ イベントの度に固定メンバーがボランティアで事業を実施するという現体制ではメンバーは疲弊して継続が難しい。

**他地域との交流・連携**

- ・ 江田島市には興味があり、気軽に行き来できる手段が整備されれば、両島間の行き来も増えると思う。
- ・ 「似島・江田島」というエリアに人を呼び込むと考えれば一泊二日のプランが考えられるかもしれない。
- ・ 昔は自家用の船で江田島に遊びに行っていた。



にのまち座談会 メンバー

犬下博      久保河内達也      住田健治      住田留美      西田美加  
 西田典充      濱本由美      堀口信介      吉本周次

## にのまち座談会 開催経緯

## 第1回「にのまち座談会 ～島の将来像について～」

令和2年1月19日(日曜日)

「似島活性化ビジョン(仮称)」を作成するに当たり、まずは、前もって参加者が考えてきた「似島の理想の将来像」について意見交換を行った。

## 第2回「にのまち座談会 ～島の暮らしと課題について～」

令和2年2月9日(日曜日)

似島に対する思いを更に具体的に語り合うため、前もって参加者が考えてきた「似島に対する具体的な思い」について意見交換を行うとともに、「医療・福祉」、「防犯・防災」、「似島臨海少年自然の家との関わり」など暮らしの課題を中心に意見交換を行った。

## 第3回「にのまち座談会 ～将来の方向性について～」

令和2年3月22日(日曜日)

前2回の内容を踏まえて、似島のエリアイメージを整理するとともに、似島の将来像の方向性について意見交換を行った。

## 勉強会「乗合タクシー出前講座」

令和2年6月28日(日曜日)

これまでの座談会であがった島内交通の観点から導入を検討している「乗合タクシー」について、広島市都市交通部による「乗合タクシー出前講座」を実施。導入に向けた課題や他地域の事例などをもとに、その可能性についての意見交換を行った。

## 第4回「にのまち座談会 ～今後の可能性について～」

令和2年10月4日(日曜日)

これまで話し合った似島の将来像の方向性に基づき、今後考えられる島の可能性に関して、「江田島市との連携・交流」、「似島学園・似島小中一貫教育校との関係」、「自然の家に隣接する新棧橋と船の可能性」、「再整備後の自然の家の島民活用や今後の関わり方」という視点から意見交換を行った。

## 第5回「にのまち座談会 ～ビジョンの作成について～」

令和3年3月30日(日曜日)

江田島市における活性化に向けた取組事例を聞きながら、隣接地域との関わりや連携について意見交換を行った。また、これまでの話し合いを基に「つながる、はぐくむ、ふるさとにのしま」を似島地域活性化ビジョンのキーワードにすることとした。

## 第6回「にのまち座談会 ～ビジョンの内容と今後の取組について～」(その1) 令和3年10月10日(日曜日)

ビジョン実現のための取組について、具体的な内容を検討した。

## 第7回「にのまち座談会 ～ビジョンの内容と今後の取組について～」(その2) 令和3年12月19日(日曜日)

ビジョン実現のための取組に係る実施体制について検討した。

## 第8回「にのまち座談会 ～ビジョンの内容と今後の取組について～」(その3) 令和4年3月13日(日曜日)

今後取組を始める上での体制を検討すると共にビジョンの内容を共有した。

### 3 似島の地域資源

#### 歴史と文化

● **バウムクーヘン**  
 似島独逸人停留収容所（現・似島臨海少年自然の家）に収容されていたカール・ユエハイムが広島原物運陳列館（現・原爆ドーム）で開催されたドイツ作品展示会で販売するために大正8年に焼いたものが、日本で初めて作られたバウムクーヘンと言われている。このことから、似島臨海少年自然の家やウエルカム似島でバウムクーヘン焼き体験が実施されるなど、似島を代表するコンテナツの1つとなっている。



バウムクーヘン製する地を伝えるサイン

● **サッカー**  
 ドイツ人捕虜と広島高等師範学校（現・広島大学教育学部）学生による、日本初のサッカーの国際試合が大正8年に行われている。このことから、サッカーが盛んに行われていた場所であり、今後もサッカーを通じたアクティビティ連携や設備の拡充についても似島らしさを構成する重要な要素であると言える。



屋内に数多く残る戦時遺構  
 歴史教育・平和学習への取り組みも盛んに行われている。

● **戦争**  
 明治時代から第二次世界大戦に至る長期にわたり、軍の施設が多く設けられており、現在でも戦争と関係のある碑や遺構が数多く残っている。

● **原爆投下**  
 爆心地から8km離れた似島には、原爆投下から20日間で約1万人が運び込まれ、ほとんどの被災者は亡くなったとされている。戦後、遺骨や遺品が大量に発掘されており、のちには慰霊碑が建立された。また、昭和21年戦災浮浪児に対する福祉を目的として似島学園も設置された。

#### 観光・レクリエーション

● 広島市似島臨海少年自然の家／海水プール  
 ● 登山／ハイキング  
 ● 魚釣り・年間を通して楽しめる方が多い  
 似島汽船株式会社のホームページでは、様々なアクティビティの紹介がされているが、特に釣れる魚の種類や釣場に関する情報が丁寧に紹介されている。

【最近活発になってきているアクティビティ】  
 自転車を中心としたアクティビティのメニュー開発や、地域おこし協力隊が中心になって砂浜を整備するなど似島を盛り上げようとする新たな取り組みが進んでいる。

- **バームクーヘンカップ**  
 （民間事業者が主催となって開催される小学生スポーツ大会）  
 サッカー／ミニバスケットボール／トライアスロン
- **サイクリング**（ウエルカム似島にてレンタサイクルも開始：平成27年）  
 ● **謎解き自転車さんぽ**（南区役所事業）  
 常時参加可能な謎解きイベントを令和2年度末から開始
- **サイクリングラリー・健康エクササイズ教室**  
 （広島市自転車都市づくり推進課事業）  
 ・似島の自然・歴史の遺産を活用したサイクリングイベント
- **広島カヤック**

BBQ場なども併設した地域おこし協力隊による事業  
 令和2年10月オープン

左) 謎解き自転車さんぽ企画の告知案内チラシ  
 右) 広島カヤックの案内チラシ

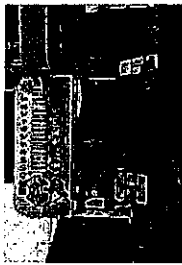
#### 地域団体・行事

似島には、多くの地域団体が活動している他、様々な行事が行われている。

- 【地域団体等】
- 似島地区コミュニティ交流協議会
- 地域おこし協力隊
- ニノシマボタルを育てる里人の会
- 似島歴史ボランティアガイド

#### 【地域行事等】

- ハノーバーの日記念イベント
- 似島アイランドカップ
- 似島大運動会
- 湯来・似島ふれあい祭り
- 荒神祭
- 自然の家・海の日オープンデー
- 愛らんどフェスタ
- 広島みなどフェスタ
- バームクーヘンカップ（前項参照）
- エコマラソン



似島港すぐ近くにある交流電圧施設「ウエルカム似島」



広島みなどフェスタ（例年）



広島みなどフェスタ（特設）



ハノーバーの日記念イベント

#### 課題解決に向けた方向性

1. 似島側からのホスピタリティとして、ネット情報の玄関口となるサイトを整備する。
2. 広島市似島臨海少年自然の家を中心とした、様々な取り組みの連携拠点ができることが望ましく、そこから江田島を始めとする瀬戸内（広島湾）としての連携の可能性を検討することが重要である。



#### 現状の課題

1. 「似島らしさ」を表す統一的な表現がなされていないかつたり、情報が散在しているなど、発信力が弱い。

2. 歴史・文化・レジャー・レクリエーションなど様々な団体に由来する多種多様な取り組みが行われているが、団体間の連携がとれていない。

#### 似島の地域資源に係る課題と課題解決に向けた方向性

1. 「似島らしさ」を表す統一的な表現がなされていないかつたり、情報が散在しているなど、発信力が弱い。

2. 歴史・文化・レジャー・レクリエーションなど様々な団体に由来する多種多様な取り組みが行われているが、団体間の連携がとれていない。



## 4 似島地域活性化ビジョンの検討の視点

にのまち座談会では、以下4つの視点から似島地域活性化ビジョンを検討する。

### 視点 1 東のにのしま、西のにのしま

似島の暮らしは、峠を挟んで東西に分かれており、大きく言えば、西は島民の暮らしの場としての顔を持ち、東は似島臨海少年自然の家や戦争に関する遺構など、来訪者が過ごす場としての顔を持っている。こうした東西のそれぞれの特性を踏まえて、似島の将来像を考えていく必要がある。



### 視点 2 似島臨海少年自然の家を核とした活性化

似島臨海少年自然の家は、似島において最大の集客施設である。これまで社会教育施設として小中学生の野外活動の場としての役割を果たしてきたが、取り巻く環境が厳しい状況下においては、多様な役割を果たし、柔軟な使用ができるよう工夫し、活性化の拠点としていく必要がある。



### 視点 3 島への愛着

座談会のメンバーから島の将来像に対して、イベントが無い時でも訪れる島、島が好きだから訪れる、住みたい島になってほしいといった希望や期待があった。そうした島を実現するためには、島の良さを知ってもらうための取り組みが必要である。



### 視点 4 周辺地域との連携

似島は、広島港からわずか20分で行くことができる立地にあることや、近年の瀬戸内観光への関心の高まり等も踏まえ、周辺地域と連携し、来訪者の増加策を検討していく必要がある。

(※にのまち座談会にて江田島市の方から話を伺う)



## 5 似島の将来像「つながる はぐくむ ふるさとにのしま」

### (1) 似島の将来像の実現に向けた取組方針

#### ア 人と人との出会い、交流がつながる島

似島には、焼き牡蠣、牡蠣飯、タコ飯、切り出しうどんなど、島ならではの食のメニューや、日本でのバウムクーヘン発祥の地のほか、初めてサッカーの国際試合が行われた土地であるといった歴史がある。こうした特性を生かし、開催されるイベントを通じて、島を訪れるきっかけをつくり交流を促進していく。

また、島内の取組だけでなく、かつては、自己所有の船で頻繁に行き来していた江田島市をはじめとする、周辺市町と連携した取組を進めることでつながる島の実現を目指す。

#### イ 学びによって人をはぐくむ島

似島には、似島臨海少年自然の家、後世へ伝えるべき似島と戦争の関わり、似島小中一貫教育校等「学び」に関する施設や歴史がある。こうした特性を生かし、学びに関するプログラムを充実させ、子どもから大人まで集える島にする。

#### ウ 何もなくても訪れる島「ふるさとにのしま」

似島は、広島港からわずか20分で訪れることができる。海や山の自然に恵まれ、それに係るアクティビティ、釣りやカヤック、登山、サイクリングなどができる。こうした特性を生かし、多くの人々が気軽に訪れる島にする。

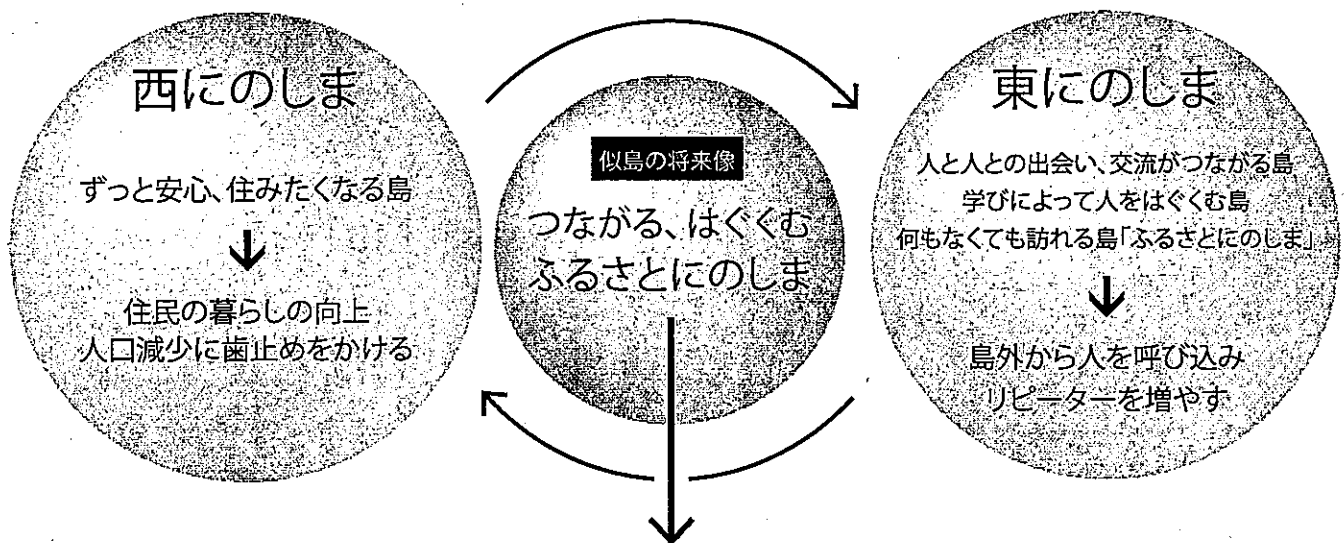
#### エ ずっと安心、住みたくなる島

似島の活性化を図るには、人口減少を食い止め航路を維持することが必要不可欠である。そのためには日常生活に係る課題を着実に解決し、島民が島の暮らしが良くなっていることを実感できるようにする。

### (2) 将来展望

今後、広島本土と広島湾内の島々、更には瀬戸内海域を視野に入れた新たな観光メニューが開発される際には、似島がその一翼を担えるよう、島の魅力づくりに努めるとともに、座談会で意見のあった新栈橋整備の可能性について検討する。

また、島ならではの食について、体験を通して生産から流通に至るまでを郷土文化と併せて一体的に学ぶことができる環境教育プログラムの提供について検討し、学びの充実と産業の振興を図っていく。



将来展望 → 広島湾の新たな日常 → 似島が一翼を担う

## 6 今後の取組について

凡例 ① 現在の取組を拡充するもの ② 新規で取組を実施するもの

③ 短期的(～3年)に取り組み事業 ④ 中期的(～5年)に取り組み事業 ⑤ 長期的(5年以上)に取り組み事業

似島の将来像の実現に向けた取組方針に基づき、以下の内容について取り組むこととする。なお、各取組について取り組むこととする。「短期」、5年間程度の「中期」、それ以上の期間を必要とする「長期」に分類することとする。

### (1) 人と人との出会い、交流が広がる島

- 似島に来るきっかけとなる行事の開催 ④ ⑤  
愛らんどフェスタや広島みなとフェスタ、令和元年度から新たに始まった「ボンバーハーパー」の日記キイイベント」など、島の特徴を生かした行事に参加し交流を促進する。
- スポーツ行事の推進 ③ ④  
スポーツを切り口とした民間主体の行事開催の動きを加速化させる。(似島自然の家の魅力向上の観点からのグラウンドの人工芝化を含む)
- 江田島市との連携 ③ ④ ⑤  
似島と江田島を周遊する観光プログラムの企画やPRなどの取組を実施、推進する。

### (2) 学びによって人をはぐくむ島

- 自然の家の活用 ④ ⑤  
小中学校の野外活動の場としてだけでなく、一般の利用者や企業が研修で利用しやすい施設となるよう検討する。
- 平和学習の充実 ④ ⑤  
似島は戦時中に検校所、捕虜収容所があった。また原爆投下後は多くの被爆者が運ばれ尊厳の命を落とした場所である。こうした歴史や今も残る戦争の遺構、令和3年4月に島民をはじめ開所された似島平和資料館を活用し、後世へ伝えるべき平和学習の充実を図る。
- 小中一貫教育校のふるさと科の内容の充実 ③ ④ ⑤  
似島の小中一貫教育校には、島外から多く児童、生徒が通学している。ふるさと科の内容が島の特徴を十分に生かしたものとなるよう協力する。

### (3) 何もなくても訪れる島「ふるさとにのしま」

- 月遊プログラムの実施 ④ ⑤  
似島のことを知ってもらうため、自車で島内をまわるプログラムを実施する。
- 環境学習プログラムの実施 ③ ④ ⑤  
似島の海の生物、山の植物、赤タリ、景勝を守るために必要なことなど自然をテーマとした環境プログラムを実施し、似島への理解を深める。
- アクティビティの充実等 ④ ⑤  
似島には、海釣りや登山などに加え、令和2年10月から地域おこし協力隊がはじめたキャック無人島ツアーや、長辺の八ヶ丘エアーグラスの提供等新たなアクティビティが創出されている。こうした、いつ来ても楽しめることのできる似島らしいアクティビティの充実を図るとともに、PRすることで来訪者を呼び込む。

### (4) ずっと安心、住みよくなる島

- 安心の暮らしを実現  
日常生活の課題の解決に向けて取り組む。
  - 災害時の避難や情報伝達
  - 島内交通の増強
  - 空き家の情報は提供体制の構築
  - など
- 島民による自然の活用 ③ ④ ⑤  
自然の寄り添いエリア後は、島民が利用しやすい施設とすることでだけでなく、地域が収益を得る場としての活用について検討する。

## 今後の取組の体制と活性化に向けて

地域が収益を得る事業は、その性格や事業リスクを勘案して、既存の地域団体ではなく新たな団体を設立して実施することも検討する。なお、収益の一部は地域の課題解決につながる事業を行うなどにより、地域に還元することを目標とする。

つながる、はぐくむ、ふるさとのしま

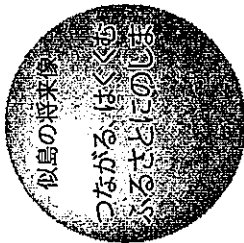
### 7 今後の取組を踏まえた島の将来展望(イメージ)

#### (1) 島の将来展望

今後の取組を踏まえると島の将来展望を下図のように想定することができる。その実現に向けては短～中長期、そして現在の取組の拡充及び新規事業も含め、各種取組の継続的な実施が不可欠である。

各取組の継続的な実施⇒将来像へと近づけていく

- (1) 人と人との出会い、交流が広がる島
- (2) 学びによって人をはぐくむ島
- (3) 何もなくても訪れる島「ふるさとのしま」
- (4) ずっと安心、住みたくなる島



似島 × 江田島のアクティビティ連携



スポーツアクティビティ交流

新路線が醸成する日常的な交流

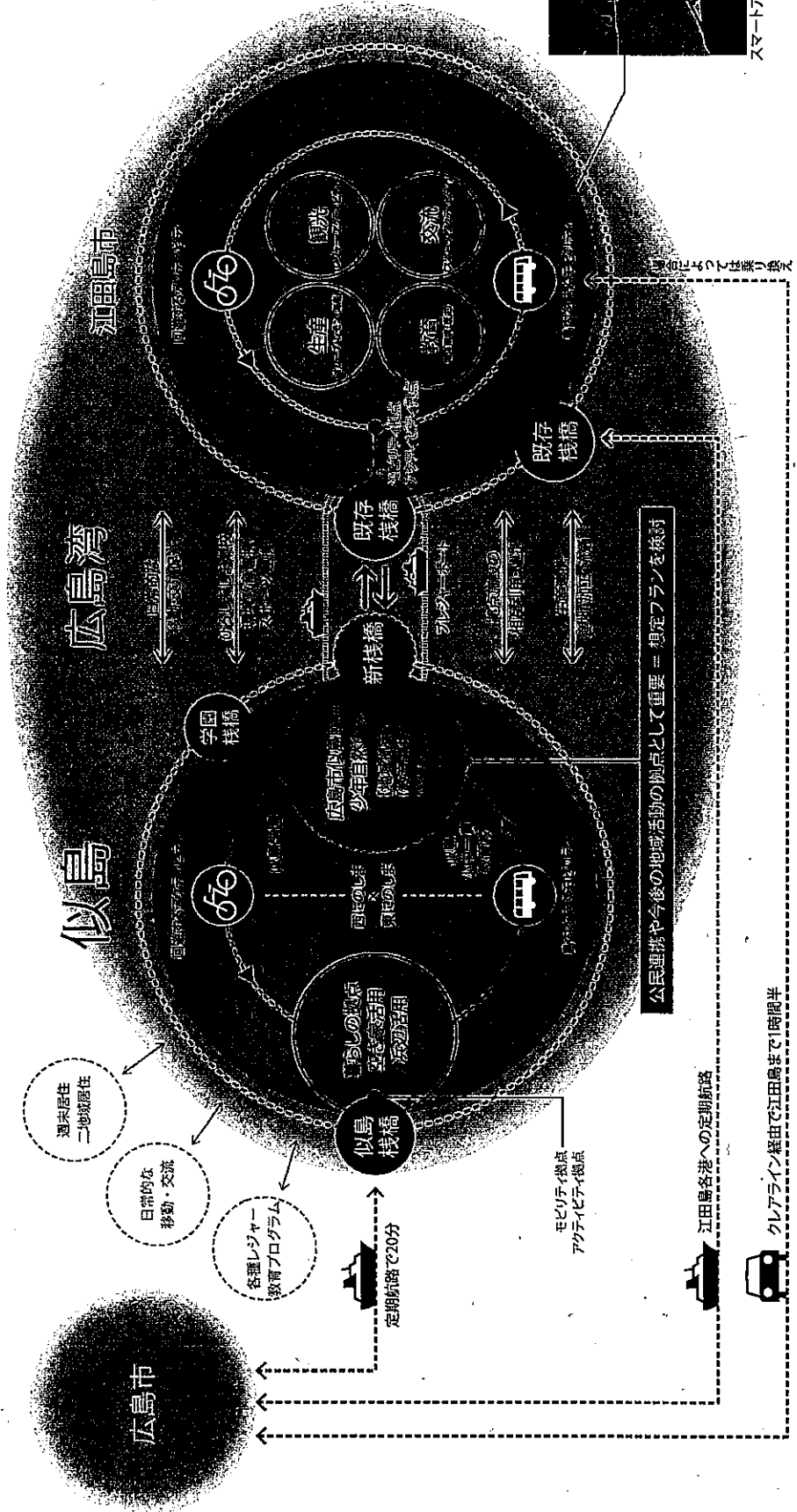
生産交流・連携アクティビティ



宿泊施設・各拠点との連携



スマートアイランド/グリーンズロモビリティの  
実証実験・エリア連携



クレアライン経由で江田島まで1時間半

### (2) 広島港の新たな可能性のひろがり〈イメージ〉

豊かな暮らしや産業の発展にも不可欠な交流人口の増加に必要な資源の拡充・連携について、将来的に広島市似島臨海少年自然の家に隣接した「新枝橋」が整備されれば、多くの可能性（様々な拠点の連携、アクティビティの連携等）を見出せる。

